

# 校長通信

## Morifun

新しい年度が始まりました。新型コロナウイルス感染症の対応のため、思い描いた通りにはなかなかいかない毎日ですが、今できることをしっかりやりたいと思います。というわけで、校長通信の第1号です。昨年度は第11号までの発行になりました。何とか1か月に1回のペースで頑張りたいと思います。

新入生には初めてなので“Morifun”というサブタイトルについて解説します。本校は通称『盛附』と呼ばれています。ローマ字表記では“Morifu”となります。キャッチフレーズも兼ねてみようと考え、nを付けて“Morifun”としてみました。皆さんご存知のように、“fun”という単語には「おもしろみ、楽しみ」という意味があります。旅行や娯楽などに出かける人に、“Have fun!”(楽しんで!)と声をかけます。本校の生活が楽しく有意義なものになるように願いを込めて付けました。(下線部は昨年度4月第1号からの抜粋)

私は大学と兼務で校長職を仰せつかっています。大学では英語文化学科に所属し教職(教員免許を取得するために必要な科目)を担当しています。今年度は本校から大学に44名、短大に7名入学してくれました。何となく心強いです。盛岡大学は素晴らしい大学です、本校と同じように学生と教員の距離が近いです。皆さんの進路選択にもぜひ盛大を含めてください!

## <4/8 入学式無事挙行>

4月8日(水)、新型コロナウイルス感染症対策のため来賓はお呼びせず、保護者の方々も各家庭1名に限定し、学園歌・賛美歌も唄わず時間を短縮しての入学式が無事行われ、173名が入学しました。

式では、新入生が呼名されると、マスク姿の一人ひとりが心のこもった大きな返事をし、一礼しました。新入生それぞれの決意を感じました。

### ◆校長式辞

「熱中できるものが見つければ、それに向かってエネルギーを注ぐことができる。自分の前に立ちほだかる壁にも立ち向かっていける」これはメジャーリーグで活躍したイチローさんの言葉です。「熱中できるもの」「愛し続けられるもの」を見つけることこそが、これからの時代を生きる皆さんに最も必要なことです。そして、その環境を整えることがわれわれ大人の責務であると考えます。情熱を持って希望を語りかける教師と、誠実に学ぼうとする皆さんとが共鳴し合い、互いに高め合っていくことが必要です。三年間の高校生活を通して、夢と目標を持ち、常に自主性を忘れず、仲間と切磋琢磨しながら、社会を生き抜くための知恵や能力を身につけた人間に成長してください。

### ◆歓迎の言葉(生徒会長・吉田大成さん)

みなさんに伝えたい言葉があります。それは『挑～Let's give it a try!!～』です。これは生徒会スローガンです。初めてのことに恐れず、自分から挑戦しよう!という意味を込めています。学校生活の中で、様々な「初めて」を経験します。みなさんには、「初めてのことに恐れたり目を背けたりするのではなく、向き合い、自ら挑んでほしいと思っています。一緒に乗り越えていきましょう。

皆さんが一日でも早く高校生活に慣れ、楽しんでくれるよう、在校生一同、応援するとともにサポートしていきます。

### ◆誓いの言葉(新入生代表・畠山響さん)

これから私たちは、盛岡大学附属高等学校の生徒としての誇りと責任を持ち、三年間の高校生活を充実したものにしていきたいと思います。そのために以下の二つのことに努めていきます。

一つ目は、学習についてです。高校の学習は中学校の頃とは比べ物にならないほど難しく、そして速く進むようになります。普段の授業はもちろん、課題や家庭学習にも意欲的に取り組み、目まぐるしく変化していく現代社会において活躍できるような人材になれるよう、努力を重ねていきます。

二つ目は、友人関係についてです。私たちはこれから様々なことを経験していくでしょう。互いに支え合い、励まし合い、その経験をより一層濃いものにしていきたいと思っています。

以上の二つのことを、先輩方の背中を追いながら一杯努めていきます。

## <4/7 始業礼拝より>

### 新約聖書 コリントの信徒への手紙 10章13節

「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずですが。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。」

新学期となり、久しぶりの登校となりました。毎日新型コロナウイルス感染症の影響で大変なことになっています。先が見えない中、世界中が不安になっています。皆さんも、学校生活がクラブ活動がどうなるのか、不安を抱えながら今日という日を迎えたことでしょうか。色々なことがこの先どうなるか分からない状況で、不安の原因は先が見えない、そして未来に希望が持てないことです。本日紹介した一節は「コリントの信徒への手紙」による有名な表現で、耐えられない試練はないというものです。この言葉は多くのクリスチャンが好きな言葉とし

てあげています。花巻教会にも、もう亡くなられましたが98歳のおばあちゃんがおられ、戦争を経験し、小さな子供を連れて満州から命からがら引き揚げてきた方で、その人が一番大切にしている聖書のことばが、この言葉だと実感をもって話していました。

こんな中最近思っていることは、先のことははっきりしないが、今日という日を大事に生きるということ。自分を大切に、周りの人を大切に今日を生きる。今日を大事にして一日一日を生きる。そうすれば必ず光が見えてくるはず。神が次の道を示してくれることを信じて今日を生きましょう。(花巻教会牧師 鈴木道也先生)

## <令和2年度 担任紹介>

始業式の日、新年度の担任の先生方が発表になりました。下記の通りです。生徒のみなさんは、よく先生方の話を聞いて、暖かい思いやりのあるホームルームを築きましょう。

年 組	担 任	副担任 等
1年1組	法領田康幸	関根伊作 (学年長)
2組	大黒 准哉	村井真人 (副学年長)
3組	小野寺克信	見上匠吾
4組	右京久里子	菅原智彦
5組	安保奈穂子	伊藤 綾
2年1組	小松 直	澤田真一 (学年長)
2組	田高 蒔生	赤坂昌吉 (副学年長)
3組	松崎 克哉	平澤 岳
4組	佐々木香苗	ジョシュア・ウィス
5組	熊谷 洋二	高橋郁子
3年1組	北村 光昭	阿部銀蔵 (学年長)
2組	太田 浩史	伊藤泰彦 (副学年長)
3組	関口 清治	澤山和則
4組	柴山 宏子	佐藤一樹
5組	吉清水克博	泉山 誠

## <新任の先生方紹介>

3月には、3名の先生方がご退職、ご異動となりました。4月から下記のフレッシュな先生や経験豊富な先生方にご着任いただきました。先生方にメッセージをいただきました。

**副校長 佐々木和哉先生 (地歴公民)**

「盛附の時をともに過ごさせていただきます。世界一嬉しい高みを目指し最高の努力をする。叶わなくても世界一悔しいその経験を活かす。互いの活動、成果をリスペクトする。その輝きを応援します。ともに目指していきましょう。」

**常任講師 右京久里子先生 (英語)**

「義務教育を終え新たな一歩を踏み出しているみなさんが、次のステップに向かって大きく羽ばたくよう、心を込めてサポートします。共に悩み、共に楽しみながら、共に成長していきましょう。よろしくお願いします。」

**常任講師 田高蒔生先生 (数学)**

「高校生活を充実したものにできるようにお手伝いできればと思っております。数学を担当しますのでどうぞよろしくお願いします。」

**書記 鈴木海さん (事務室)**

「今年度から働かせて頂くことになりました。3月までは盛岡大学の学生で教育心理学を専攻しておりました。社会人としてまだまだ至らぬ点が多いですが、一生懸命頑張りますので宜しくお願いします。」



## <今月お勧めの一冊>

昨年度の第10号では〈私の愛読書〉というコーナーを設けましたが、今年度から朝読書が始まったのでタイトルを変えて、随時本の紹介ができればと考えました。

今月の一冊は『グレタ たったひとりのストライキ』(海と月社)です。始業式や新入生オリエンテーションでも話しましたが、今、世界で最も注目されている人物、グレタ・トゥーンベリさんが、2018年15歳の夏にスウェーデンの国会議事堂の前で、たった1人で「気候変動のための学校ストライキ」を決行したときの話を中心に描かれています。グレタは主張します。「直ちに二酸化炭素排出量を大幅に削減し、地球温暖化を2度未満に抑えなくてはならない。さもないと気候変動により世界は確実に崩壊に向かい、人類は生存の危機に陥る。そのためにも世界各国は対策を取り、企業は直ちに経済優先の産業政策をストップさせるべきである」と。

世界は今、新型コロナウイルス感染症との闘いを強いられっていますが、自分さえあるいは自国さえ良ければという考えは捨てて、本当の意味でグローバルに考え行動すべきなんだと、この本を読んで気づかされました。グレタを支える家族の奮闘にも目頭が熱くなりました。

**今月の言葉**「あなたは空っぽの言葉で、私の夢そして子供時代を奪いました。すべての生態系が破壊されています。私たちは大量絶滅の始まりにいます。それなのにあなたたちが話しているのは、お金のことと、経済発展がいつまでも続くというおとぎ話ばかり。あなたたちは私たちに「耳を傾けている」、そして緊急性を理解していると言います。しかし私はそれを信じたくありません。なぜなら、もしあなたたちが状況を理解していながら行動を起こしていないのであれば、それはあなたたちが邪悪な人間ということになるからです。」(グレタ・トゥーンベリ 国連気候変動サミットでの講演から)